

にほんブログ村通信

第二一〇号 平成十六年六月二十日

〒九三三〇八〇四 高岡市問屋町四十

有限会社 沖商店

2015.6.20

TEL 〇七六六一二五〇五五
FAX 〇七六六一二五〇〇〇
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』『そんな人生の根本問題を皆様と一緒に考えたい』『皆様の心に一石を投じて、意見を頂く機会になることを願って本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。』

一 この世の物事はすべて私のためにある

一昨年、ひよんな事から農地を手に入れることができました。

今日の日本では、通常は農家でない者が農地を手に入れることは至難の業です。と言うのは、法律によって農地の売買が厳しく制限されているからです。

昔から島国の日本においては、食物の自給自足の観点から、農作物、特に米に対する価値観が大きく、それらを産する農地を大切にしてきました。

特に、機械化された大規模農業構想下での今日の農業経営では、農家でない者が、田んぼのど真ん中に農地を手に入れ、勝手に宅地に転用したり、倉庫を建てたりして、機械化農業の邪魔をしないように、市街化区域と市街化調整区域に分けて、法律で厳しく規制されています。今日の私どもの地域では、農家でない者が一反や二反の農地を手に入れることはできません。只、農業に意欲を持つ者は農家として認めるという意味で、農地を五反以上買入れる場合は、農家でない者でも農地を手に入れることが許可されていて、この度、縁があつて、農地六反半、一度に購入でき、農家になりました。

六反は、他人に委託し水田として米を作っていますが、半反は畑になっていましたので、自分で野菜作りを楽しんでいます。

一四〇坪の敷地に小屋を建て、葡萄十本、梨二本、林檎二本、桃三本、栗一本、柿二本、枇杷二本、ブルーベリー一本、あけび一本植えました。それらの木の間に利用して色々な野菜を作っています。

ます。じゃがいも・さつまいも・さといも・八頭・いちご・とまと・なす・きゅうり・あまうり・しろうり・メロン・かぼちゃ・すいか・ブロッコリー・パセリ・にんじん・枝豆・つる豆・大根・蕪・春菊・こまつな・ほうれん草・チンゲン菜・とうもろこし・たまねぎ・根深ねぎ・葉ねぎ。

畑は土作りから始まります。先ず、消石灰・苦土石灰をふんだんに撒きます。耕運機でなるべく深く細かく耕します。元肥をたっぷり施し畝を作ります。種・苗を植え付け、支柱が必要なものはあらかじめ立てて、誘引が必要なものは縄も張っておきます。

後は水やりと草むしりです。幸いにも横に大きな水やりには大した労力が掛かりませんが、問題は草むしりです。

シーズン初めは、畑全体を耕運機でおこしますのでもきれいな状態ですが、野菜を植えたあととは手でむしらなければなりません。こちらの畝をきれいにしたと思つたら、あちらの畝が草ぼうぼう。そこを片付けたと思つたらまたあちらと、草との戦いです。でも、全体がきれいに除草された畑を見ると、「やっただぞ」と言う一種の達成感・満足感を感じます。

ところで、畑の中はそんなことですが、周りの畔までは手が回りません。それで、除草剤を撒きました。除草剤も、葉だけを枯らして土に触れると毒性がなくなるものから、根こそぎ枯らして永く効果が持続するものまでいろんな種類があります。

それで畔には、根こそぎ枯らして永く効果が持続するものを撒きました。撒いた量が多かつたからか、一年以上草が一本も生えてきませんでした。後ろの畑に隣接している面を除き、三方が畔になっていましてので大変助かりました。

ところが、先日、水抜き穴を中心に、畔の一部が水に流されて暗きよになっているのを発見しました。あわてて石と土で修復しましたが、そこで「何の役にもたない煩わしいだけ」と思っていた雑草が土の流出を防いでいたことに気が付きました。そして「この世の中に無駄なものはない。邪魔なもの・煩わしいものと思っているのは自分の都合であり、自分の身勝手な思いなのだ」と思いました。

たしかに、ある時は邪魔もの扱いしていた物事が後で役立つ、あるいは、恨み・憤怒していたことが後で振り返ってみると、そのことがなければ今日の自分はなかつたと感謝するような事件が少なくありません。

「この世の中の物事は全て、なるべくしてなり、なるべくしてあるのであつて、それを煩わしく邪魔に思うのも便利に嬉しく思うのも、苦しく思うのも楽しく思うのも各々の勝手な事情に因るのだ」としてさらに「全ての事柄は、思い・考え次第では、如何にでもできるものだ」と思いました。

冒頭の『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』『か』の一つの考え方として「人格の向上」「完全な人格の完成」と私は思っています。そんな思いで私の周囲を見ますと「この世の中の物事はすべて私のためにある」と思われるのです。

農地を手に入れることができたこと、畑仕事に興味を持ったこと、畦に除草剤を撒いたこと、畔の土が流出して雑草の役立ちを発見したこと、世の中に無駄なものはないと気づき、神・仏は、何時でも何処でも、私に魂の向上のための修行の場を与えてくれているのであつて、それに気付くか気付かないかは私の技量（人格・魂の完成程度）なのだと思ひました。そしてそれに気付いた時、自分の肉体の力・頭脳の程度・精神的作用などは、ほんの小さいものであり、大自然の偉大な他力を感知させられて、感謝と敬意の念が湧いて来て、手を合わせずにはおられないのです。

二 息子が帰る

今年四月一日付けで私の長男・昌幸からメールが届いていました。

『父へ、ご無沙汰しております。昌幸です。相変わらず精力的に過ごされていることと思います。平日頃より私の人生の節目において決断する時には父の考えを聞くべきだと考えておりますので今回ご連絡させて頂きました。』

上京してから13年間、社会人になってから7年間東京で生活してきましたが、そろそろ実家に帰ろうかなと考えています。

今の会社が嫌になつたとか特に何か問題があつたわけではないのですが、時間がある時にこれから先のことを考えてみると、今が決断のしどころだと感じています。

突然のご連絡なので、父の方でも心積もりや段取りもあるうかと思ひますので、率直な意見を伺いたいと思ひます。』

題壁 壁に題す

男児立志出郷関 男児志を立てて郷関を出ず
学若無成不復還 学若し成る無くんば、復還らず
埋骨何期墳墓地 骨を埋む何ぞ墳墓の地を期せんや
人間到处有青山 人間到处青山有り
「男子たるものひとたび志を立てて故郷を後にしたからには、学業（人として生きるための）を成し遂げなければ死んでも故郷には帰らない。骨を埋めるのは先祖代々の墓地に限ったことはない、人間には到る所にその人の骨を埋めるための青山があります」

「将来メーカー直売になることが目に見えている、この商売に身を寄せるには、それ相当の覚悟がいるが、本心に判っているのか」

などの説教がましい意見・念押しを期待覚悟してはいたが、本人の発起なくしての押し付け・無理強いする気はさらさらありませんでした。

また、自分の報酬をゼロにしてまで頑張り守りたてい家庭の沖商店ですが、息子に継がすのには不安が残ります。それは、中小企業とは名ばかり、零細企業そのものの沖商店へ息子を引き入れれば、苦勞をするのが目に見えているからです。しかし、私の持論では苦勞をする場こそが、己の魂の修行・人格向上の舞台だとしていますし、それを子供達にも年少の時から言い聞かせてありますから、本人が覚悟の上ならこれに越したことはありません。

そして今、息子が自らの意志で帰って来ます。『空いた港へ船が着く』の諺通り、息子には、息子の考え・遣り方があり、発想の転換もしたりして、私より勝れた経営方法を見付けることでしょう。

対外的信用においても、後継者の有無はその会社への将来性判断要素としては大きく、金融機関をはじめ仕入先・得意先に、将来への安心を提供できることは、何よりのサービスだと心得ています。

息子は、今月二十八日に帰ってきます。近日中に一緒に挨拶にお伺いします。

どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail 0k3529@stn.ocn.ne.jp
（にほんブログ村の着信を拒否する個人のメールアドレスは、0k3529@stn.ocn.ne.jp）